

教育・臨床心理専攻

1. 専修科目、授業科目、単位数、担当者及び主研究内容等

※ 担当者氏名前の○印は、令和6年度の学生募集担当者を表します。

※ 臨床心理分野は、公認心理師と臨床心理士の資格取得に対応したカリキュラムです。

※ 公認心理師受験資格を得るための実習科目では、別途実習費がかかります。

種目	分野	授 業 科 目	単位数	担当者	主研究内容等
選 択 必 修 科 目	教 育	教育人間学特講Ⅰ	2	教授 ○勝山 吉章	特講Ⅰ・Ⅱは、院生のニーズに応じて講義内容を組み立てることを原則とする。基本的には西洋教育史と日本教育史をベースにしなが、「子ども」、「子育て」、「家族」、「学校」、「教師」などをテーマにしなが教育の歴史を振り返る。演習Ⅰ・Ⅱでは、特講で学んだことを基礎に、修士論文の完成を目指す。
		教育人間学特講Ⅱ	2		
		教育人間学演習Ⅰ	2		
		教育人間学演習Ⅱ	2		
		教育人間学特講Ⅲ	2	教授 博士(教育学) ○植上 一希	時代状況に対応して、青年期教育論の枠組みや方法論は変化している。 その変化を各自が理解し、それぞれが対象とする研究テーマに対応する理論枠組みや方法論を作っていく基礎的な観点を獲得することを目的としている。 そのために、ここでは現代の青年期教育研究の理論的枠組み、方法論、到達点などについて整理していく。具体的には青年期教育論の起点としての宮原誠一の検討から始まり、普通教育論と職業教育論のジレンマ、企業社会論、消費社会論、高等教育論との関わりで積み重ねられてきた日本の青年期教育論についてその特徴について整理していく。 こうして得られた青年期教育論の枠組み・方法論をもとに各自が作り上げた枠組みや方法について、論文執筆とその検討を通して実践的に練り上げていく。
		教育人間学特講Ⅳ	2		
		教育人間学演習Ⅲ	2		
		教育人間学演習Ⅳ	2		
		教育人間学特講Ⅴ	2	教授 ○添田 祥史	近年の社会教育学研究の対象は、公的社会教育に留まらない。地域づくり、福祉、性の多様性やジェンダー、障害、環境問題、多文化共生、NPO、市民運動など多岐にわたる。 特講では、実際に学会誌に掲載されている論文を教材にして、社会教育学研究の特徴及び視座と方法について学ぶ。それをふまえて、演習では、先行研究を丹念に読み込み、自らの研究課題とその意義を明確にした上で、修士論文の執筆に取り組む。
		教育人間学特講Ⅵ	2		
		教育人間学演習Ⅴ	2		
		教育人間学演習Ⅵ	2		
		教育人間学特講Ⅶ	2	准教授 博士(教育学) ○山岸賢一郎	特講では、教育哲学・道徳教育学をはじめとする人文社会科学領域の諸成果について学び考えることで、受講者各自の問題関心を育てつつ、教育哲学研究ないし道徳教育学研究の基礎を身につけます。そのために、各自の問題関心に応じて、たとえば教育における「自律」や「自由」や「権力」や「状況」や「理性」や「知性」や「道徳」や「道徳教育」などに関わる文献を精読し、議論します。 演習では、受講者各自の問題関心をさらに育てつつ、その問題関心を追究し、教育哲学研究ないし道徳教育研究としての修士論文の完成を目指します。
		教育人間学特講Ⅷ	2		
		教育人間学演習Ⅶ	2		
		教育人間学演習Ⅷ	2		
		教育システム論特講Ⅰ	2	教授 博士(教育学) ○高妻紳二郎	特講では、教育システム改革の動向の背景や見通しをさぐるために内外の文献を講読し、教育システム改革に関する理論的知識と改革プロセスが依拠する具体的理念及び展開過程について検討する。 演習では、特講で学んだことを基礎に、学界における研究を丹念に読み込み、修士論文の完成を目指す。
		教育システム論特講Ⅱ	2		
		教育システム論演習Ⅰ	2		
		教育システム論演習Ⅱ	2		
		教育システム論特講Ⅲ	2	教授 博士(教育学) ○藤田由美子	特講では、学校教育と社会のかかわりについて、主として教育社会学の諸文献を手がかりに考察を深める。たとえば、「学力」「身体形成」「子どもの貧困」「児童虐待」「ジェンダー・セクシュアリティ」などの諸テーマについて、教育社会学的研究における議論を整理するとともに、具体的事例の分析・考察を行う。あわせて、教育社会学の研究方法論について理解を深める。 演習では、特講で学習した教育社会学の研究動向を踏まえつつ、自らの生活経験に根ざした問題意識を「研究問題」として具体化し、修士論文の完成を目指す。
		教育システム論特講Ⅳ	2		
		教育システム論演習Ⅲ	2		
		教育システム論演習Ⅳ	2		
		教育システム論特講Ⅴ	2	教授 博士(教育学) ○佐藤 仁	教育システム論特講Ⅴ・Ⅵでは、具体的な教育政策を事例に取り上げ、その政策過程分析を行う。特に、国際的な潮流がどのように影響を及ぼしているのかという観点を設定する。教育システム論演習Ⅴ・Ⅵでは、個人の修士論文のテーマに即しながら、それに関連する政策の分析を行っていく。
		教育システム論特講Ⅵ	2		
		教育システム論演習Ⅴ	2		
		教育システム論演習Ⅵ	2		
		教育システム論特講Ⅶ	2	教授 博士(教育学) ○伊藤亜希子	今日の教育現場においては、外国人児童生徒等がもたらす文化的背景の多様性やジェンダーやセクシュアリティといった性の多様性への注目が高まっている。 教育システム論特講Ⅶ・Ⅷでは、今日の教育現場におけるこうした多様性に着目し、それを公正に包摂する教育システムを検討するため、多様性をめぐる研究・政策・実践について考察を深めていく。その際、国内外の異文化間教育学や比較教育学における議論を中心に整理していく。 教育システム論演習Ⅶ・Ⅷにおいては、各自の修士論文のテーマに関する研究・政策・実践について捉えられるように、それぞれに関わる文献を講読し、枠組みの設定、精緻な分析を行い、修士論文の完成を目指す。
		教育システム論特講Ⅷ	2		
教育システム論演習Ⅶ	2				
教育システム論演習Ⅷ	2				

種目	分野	授 業 科 目	単位数	担当者	主研究内容等
選 択 必 修 科 目	臨 床 心 理 学	臨 床 心 理 学 特 講 I	2		本授業では、専門職業人としての臨床心理士の職能と社会性について、文献講読を通して理解を深める。具体的には、職業倫理、諸ガイドライン・諸規準、法的責任、臨床心理専門家としての発達段階と訓練課程の内容、記録のとり方、他職種との協働の仕方、社会の中での臨床心理士の立場・役割、臨床心理士をめぐる社会的状況と課題などについて展開する。
		臨 床 心 理 学 特 別 演 習 I	2	教授 博士 (人間環境学) ○村上久美子	本演習では、各自の研究テーマを具体化し、修士論文作成に向けて、個別・集団指導を行っていく。個々人の研究計画構想をもとに、発表とディスカッションを繰り返しながら、演習を進めていく。(1) 先行研究の展望の上に、自分の研究課題を位置づけること、(2) 研究目的に応じた研究デザイン・方法を選択し、実施すること、(3) 研究の土台となる研究倫理について、確実におさえること、(4) 研究の実現可能性について、十二分に検討すること、(5) 論文執筆の作法について学ぶこと、について展開する。本演習には、毎年、臨床心理学に関連する様々な研究テーマを持った院生が集まっている。互いに支えあい・高めあえる演習にしていきたいと思います。
		臨 床 心 理 学 特 別 演 習 II	2		本演習では、修士論文完成に向けて、臨床心理学特別演習 I での研究を継続し、更に展開していく。具体的には、修士論文完成を目標に、研究計画の実施、分析、論文執筆、発表会・審査会の準備を行いながら、研究の総仕上げを行っていく。本演習では、これまで、教育、医療、福祉など幅広い領域のテーマで、論文が執筆されてきた。修士論文作成への誠実な取り組みは、心理専門職としての仕事への取組みと繋がると思えます。完成までしっかりと取組みましょう。
		臨 床 心 理 学 特 講 II	2	教授 博士 (人間環境学) ○村上久美子 教授 ○徳永 豊 准教授 博士 (臨床心理学) 坂本 憲治 講師 博士(心理学) 満身 史織	本講では、臨床心理学の専門性と実践方法論、社会的意義・役割、専門家としての職業倫理等について、専門知識と実践方法およびその課題に関する理解を深める。具体的には、社会の中で臨床心理学が果たす役割、臨床心理学の統合モデル、教育・産業労働・福祉・医療保健・コミュニティ等における実践と課題、心理専門家としてのキャリアについて展開する。
		臨 床 心 理 学 特 別 演 習 I	2		各受講者の修士論文の作成にあたって、臨床心理学の研究に必要な研究テーマの設定、問いと主張に関する研究の課題や仮説の設定、研究方法の選定、文献レビューなどを行う。また、研究デザインを確認しつつ、データの収集、分析・処理、調査結果からの考察点について検討を重ねていく。また、研究発表の技術についても検討する。こうした一連の検討を、指導教員も含め受講者全員で意見交換を行ないながら進めていく。
		臨 床 心 理 学 特 別 演 習 II	2	教授 ○本山 智敬	ロジャーズのクライアント中心療法(パーソンセンタード・アプローチ)に関する理論とその面接態度について学ぶ。人間理解の基本仮説、そして傾聴の態度として提唱された必要十分条件およびその中核三条件がそれぞれ何を意味するのかを理解するとともに、実際にロールプレイを行い、そのやり取りを丁寧に振り返ることを通して、傾聴の基本姿勢について具体的に検討する。
		臨 床 心 理 学 特 別 演 習 I	2		各受講者の修士論文の作成にあたって、臨床心理学研究で必要となる先行研究のレビュー、課題設定、仮説設定、研究法の選定などを行う。研究で得られた資料を分析し考察するとともに、その後の研究にどのように発展させるかを論じる。研究のプレゼンテーションにあたっての技術や技能についても検討を行う。
		臨 床 心 理 学 特 別 演 習 II	2	教授 ○田村 隆一	臨床心理学領域での査定のうち、主に質問紙法などの自記型の検査について学ぶ。テスト理論と心理テスト作成に関する技術を身につけるため、質問項目の作成、項目分析、信頼性・妥当性の検討を行う。また、代表的な心理テストの実施方法とその活用について検討する。
		臨 床 心 理 学 特 別 演 習 I	2		各受講者の修士論文作成に関わる基本事項の発表・討議と心理臨床に関する内容の協議で授業を展開する。研究デザインを確認し、データの収集、分析、質的データの処理について報告し協議する。
		臨 床 心 理 学 特 別 演 習 II	2	教授 ○徳永 豊	臨床心理学特別演習 I での検討を基に、各受講者の修士論文作成に関わる基本的な事項を協議する。<1. 課題意義と問題設定>と<2. 問題設定と考察のつながり>について、指導教員の助言を手がかりに、受講者同士で意見交換を行う。

種目	分野	授 業 科 目	単位数	担当者	主研究内容等		
選 択 必 修 科 目	臨 床 心 理	臨床心理学特別演習Ⅰ	2	准教授 博士 (人間科学) ○長江 信和	受講者の修士論文作成に関わる基本事項の発表・討議と心理臨床に関連する内容の協議で授業を展開する。研究テーマ、研究デザインを確認し、データの収集、分析、処理について報告し、協議する。 また論文作成の基本的な事項として、＜1. 課題意識と問題設定＞と＜2. 問題設定と考察のつながり＞について、各受講者が作成した資料を基に発表し、指導教員の助言を手がかりに、受講者同士で意見交換を行う。 心理臨床に関連する内容については、最新の話題や共有する課題などを予定している。さまざまな視点からの意見を手がかりに、自分の研究テーマを確認し、より確かなものにするための演習である。		
		臨床心理学特別演習Ⅱ	2		臨床心理面接特論Ⅰ	2	実証的な根拠に基づく認知行動理論と認知行動療法(CBT)を理解する。基礎的な傾聴技法や研究技法を踏まえて、実践的な認知行動アプローチを学習する。特に、ロールプレイやビデオ(事例)の視聴を通じて、外傷後ストレス障害(PTSD)に対する持続的エクスポージャー療法の実際について学ぶ。
		臨床心理学研究法特論	2		教授 ○田村 隆一	臨床心理学研究を行う上での様々な方法論について論じる。臨床心理学研究の基本、臨床心理学の研究法、臨床心理学研究の実際、の柱からなる。臨床心理学研究の基本では、研究の方法論、データ収集の基本技法、データ処理の基本技法について講義する。臨床心理学の研究法では、実践を通しての記述的研究、実践に基づく統合的研究、実践に関する評価的研究について講義する。臨床心理学研究の実際としては、アセスメント技法に関する研究、心理臨床的介入技法に関する研究について講義する。最後に全体をまとめるとともに、修士論文作成に向け、あらためて研究倫理やアカデミックライティングについて展開する。	
		臨床心理査定演習Ⅰ	2	教授 ○松永 邦裕	臨床心理査定演習Ⅰでは、不登校や発達障害などの事例を中心に、実習で実施した心理検査の結果を、生育歴、家族の情報、問題の発生と経過などの情報を関連づけて検討し、心理臨床における心理査定の実際について学ぶ。 臨床心理学特別演習Ⅰ・Ⅱでは、各受講者の修士論文作成に関わる基本事項及び心理臨床に関する内容の発表・討論を通して、各自のテーマをより確かなものにする。		
		臨床心理学特別演習Ⅰ	2		臨床心理査定演習Ⅱ	2	臨床心理査定演習Ⅱでは、各種心理検査の目的を理解し、実施方法を修得する。心理検査の目的や意義を理解し、実施方法を習得するだけでなく、心理検査の結果の整理、解釈の仕方を、練習問題を用いて学ぶ。最終的には臨床の場で実施できるために、事例の検討を通して心理査定の結果からクライアント理解を深めていけるよう研鑽を積む。
		臨床心理学特別演習Ⅱ	2		講師 博士(心理学) 満身 史織		

種目	授 業 科 目	単位数	担当者	主研究内容等
選 択 科 目	学 校 教 育 論 特 講	2	准教授 博士(教育学) ○山岸賢一郎	この授業では、学校教育の在り様の過去・現在・未来を、授業担当者が専門とする教育哲学の知見はもちろん、教育史・教育社会学・質的研究などの人文・社会科学の知見をもって、「批判」的に考察します。文献の講読と議論が授業の軸の一つになりますが、院生の興味関心とも相談しながら文献や内容を調整します。
	道 徳 教 育 論 特 講	2		この授業では、道德教育と道德授業の過去・現在・未来を、教育学の知見をもって多面的・多角的に考察しながら、言い換えれば「批判」的に考察しながら、よりよい道德教育・道德授業の在り方を探ります。文献の講読と議論、学習指導案の検討、模擬授業とその振り返りなどが授業の軸になりますが、院生の興味関心とも相談しながら内容を調整します。
	教 育 調 査 ・ 統 計 論 特 講	2	教授 博士(教育学) ○藤田由美子	修士論文作成に不可欠である教育調査・統計の基礎を身につけることを目指す。まず、問いから仮説を検証しデータ収集を行うための基本的な考えについて学ぶ。続いて、統計ソフトを活用した演習を通して、教育調査・統計の基礎を具体的に・実践的に学ぶ。最後に、質的調査研究についても、具体的な事例および演習によって学ぶ。
	家 庭 教 育 論 特 講	2	非常勤講師 三時眞貴子	【令和5年度開講】
	地 域 教 育 論 特 講	2	教授 ○添田 祥史	この講義では、現代社会における「地域と教育」の関係について考えます。授業で扱うテーマは、大きく次の二つです。前半部では、「過疎地域の持続可能性と学校」について検討します。地域にねざした教師や学校がどのように語られてきたのかを批判的に検討しつつ、近年の政策動向の整理と事例検討を行います。後半では、「教育と福祉の結合」について、包摂型の地域づくりという視点を絡めながら検討します。小川利夫の教育福祉論の視座と方法を検討しつつ、現代の貧困問題に対する教育的解決の方途を検討します。
	生 涯 学 習 論 特 講	2		この講義では、生涯学習社会を実現していくために必要な理論、思想、計画、実践について学んでいきます。生涯学習社会とは、「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会」のことをさします(教育基本法第3条)。講義では、国際的な学習権論に関する議論、成人の学習論理論や実践分析、学習者を支援する組織・施設・事業、計画などについて検討します。また、理解を深めるために、ゲストスピーカーによる講和や現場見学も予定しています。おとなの学びを支える最大の学習資源は、「経験」です。お互いの経験や人生に学びあいながら、対話的に講義を進めていければと思います。
	キ ャ リ ア 発 達 論 特 講	2		【令和5年度休講】
	国 際 比 較 教 育 論 特 講 I	2		【令和5年度休講】
	国 際 比 較 教 育 論 特 講 II	2	教授 博士(教育学) ○伊藤亜希子	本特講では、とりわけEU拡大や域内移動の自由によって多様化した社会における教育課題として移民や難民を取り巻く教育について取り上げ、ヨーロッパ諸国がこれに如何に取り組もうとしているか、異文化間教育やシティズンシップ教育の文脈から理解を深める。そして、日本社会の多文化化に伴う教育課題を念頭に置き、それに対し、どのような知見を導き出せるのか、英語及び日本語の文献講読を通して比較考察を行う。
	異 文 化 間 教 育 論 特 講	2		本特講では、日本において異文化間教育に関する議論がどのように発展し、学校や地域における共生の課題に取り組んでいるのか理解を深め、その意義を考察していく。具体的には、異文化間教育で研究課題となる適応や言語教育、異文化理解に関する論文を講読し、検討していく。また、日本における異文化間教育を検討していく際の参考として、ヨーロッパにおける異文化間教育についても事例として取り上げる。
青 年 期 教 育 論 特 講	2		【令和5年度休講】	
教 育 学 研 究 特 講	2	非常勤講師 尾川 満宏	【令和5年度開講】	

種目	授 業 科 目	単位数	担当者	主研究内容等
選 択 科 目	臨 床 教 育 論 特 講	2	教授 ○松永 邦裕	子どもの発達と臨床心理学の基礎を概観し、「不登校」「いじめ」「発達障害」「児童虐待」「少年非行」などの教育現場に密着した最新の問題について、演習を通して、理解を深める。
	心 理 療 法 特 講	2	非常勤講師 木谷 秀勝	【令和5年度開講】
	心 身 医 学 特 講	2		【令和5年度休講】
	臨床パーソナリティー論特講	2	非常勤講師 吉良 安之	【令和5年度開講】
	臨床心理関連行政論	2	非常勤講師 高橋 幸市	【令和5年度開講】
	臨床心理地域援助論特講	2		【令和5年度休講】
	臨 床 心 理 実 習 I	2	教授 博士 (人間環境学) ○村上久美子 教授 ○本山 智敬	本実習では、心理専門職としての知識、理解、スキル、態度を体験的に学ぶ。具体的には学内の実習施設でもある臨床心理センターでの実務をもとに、臨床心理センター業務の理解、電話受付、検査・陪席、プレイルームでの活動、知能検査、フィードバック面接などについて、ロールプレイを重ねながら実践力を養う。ロールプレイでの体験は全体でシェアリングし、臨床能力を多角的に養う。
	臨 床 心 理 実 習 II	2	教授 ○本山 智敬 准教授 博士 (人間科学) ○長江 信和	心理臨床の実際を体験するなかでカウンセリングおよび心理療法のより高度な実際の技法を検討する。導入期の問題だけでなく、展開期あるいは終結期における典型的な問題を面接者の技量の範囲内でどのように多面的に理解することが可能かを実際の事例を通して検討する。また専門家としての資質と技量をあげるための体験学習だけでなく、他職種との協力のもちかた、地域や他の専門機関との連携のしかたなども体験を通して研鑽を行う。
	臨 床 心 理 基 礎 実 習 I	2	教授 ○田村 隆一 講師 博士(心理学) 満身 史織	臨床心理学の社会性という観点から、臨床心理面接をいわゆるクリニック・モデルによる心理面接の方法論(構造・技法・目標等)を基礎にしながら、それらを現実の社会における援助ニーズに活かしていく(いわゆるコミュニティ・アプローチ)ための工夫や課題について検討する。技法的観点からは統合的アプローチの発想を中心に、領域的観点では地域援助、実践家としてのスタンスとしては他職種との連携・協働という視点からそれぞれ臨床場面における臨床心理専門家としての専門性のあり様を考える。
	臨 床 心 理 基 礎 実 習 II	2	教授 ○田村 隆一 講師 博士(心理学) 満身 史織	臨床心理基礎実習Iに続いて、より実践的な実習を行う。心理相談施設における基本的な運営活動に参加し、心理面接や心理査定の実習を行う。さらに、自殺の危険性や医学的治療の必要性の査定、危機介入、問題行動への対応、臨床場面において生じる転移・逆転移の取り扱い、家族や学級などへの集団療法的アプローチ、多職種との連携(コンサルテーション)、協働(コラボレーション)についても研修を行い、基礎的・汎用的な臨床能力を身につける。
	保健医療分野に関する理論と支援の展開	2	非常勤講師 西村 良二	【令和5年度開講】
	福祉分野に関する理論と支援の展開	2	教授 ○徳永 豊	福祉分野(児童福祉、障害福祉、高齢福祉)における公認心理師の役割・支援方法について、理論および実践的な展開を学ぶ。福祉分野において実践されている心理的支援について、理論および実践的な支援の展開を理解する。対象者の理解や支援理論についての講義に加え、支援事例に関する検討についてグループワークを交えて行う。
	教育分野に関する理論と支援の展開	2	非常勤講師 吉村 隆之	【令和5年度開講】
	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	2	教授 大上 渉	公認心理師カリキュラムに基づき、司法・犯罪分野にかかわる①犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件、並びに②司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援などについて改めて確認するとともに、それらの知見や理論、方法などを応用して、司法・犯罪分野に関わる公認心理師のさまざまな実践の方法について学ぶ。
	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	2	准教授 博士 (臨床心理学) 坂本 憲治	産業・労働分野における心理専門職は、個別的支援に加えて、組織風土や業界全体をアセスメントする視座を持ち、予防的・開発的活動を展開する専門性が求められる。本講では、まず、産業領域に固有の個別的支援法としてキャリアカウンセリングの理論と方法を学ぶ。次に、厚生労働省の「メンタルヘルス指針」や「ストレスチェック制度」、「セルフキャリアドック」などを学び、一次予防・二次予防にかかる支援を効果的に展開できるようになることを目指す。

種目	授 業 科 目	単位数	担当者	主研究内容等
選 択 科 目	心理的アセスメントに関する理論と実践	2	非常勤講師 高橋 幸市	【令和5年度開講】
	心理支援に関する理論と実践	2	准教授 博士 (人間科学) ○長江 信和	公認心理師カリキュラムに基づき、力動論や行動論・認知論等に基づく心理療法の理論と方法について学ぶ。さらに、上記の理論や方法を応用して、心理に関する相談や助言、指導等の進め方についても学ぶ。また、心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた、適切な支援方法の選択・調整の仕方についても学ぶ。
	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	2	教授 ○本山 智敬	家族療法やグループ・アプローチの理論や実践方法について、多角的に学ぶ。具体的にはパーソンセンタード・アプローチ(エンカウンター・グループ)の基本的考え方やファシリテーション、システム論的家族療法およびそこから派生したオープンダイアログの理論と実際について、事例検討や文献講読、演習を通して検討する。
	心の健康教育に関する理論と実践	2	教授 博士 (人間環境学) ○村上久美子	公認心理師が行う業務として公認心理師法の中で、保健医療、福祉、教育その他の分野において、専門的知識及び技術をもって心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと、があげられている。本講義では、広く国民の心の健康を守り育むための心の健康教育に関する理論について紹介し、様々な領域における心の健康教育に関する実践について展開する。
	心理実践実習Ⅰ	2	教授 博士 (人間環境学) ○村上久美子 教授 ○徳永 豊 教授 ○松永 邦裕 准教授 博士 (臨床心理学) 坂本 憲治	公認心理師法に基づき、知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、実習を行う。実習内容は、(1)心理に関する支援を要する者等に関する次の知識及び技能の修得(①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等)、(2)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(4)多職種連携及び地域連携、(5)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解が含まれる。本実習では学内実習(臨床心理センターおよび臨床心理センター附設適応支援教室「ゆとりあ」での実習)について、上記(1)～(5)に関する基本事項の整理や確認、支援計画の作成・見直し、事例検討、実習状況の確認、振り返りなどを個別指導と集団指導を併用し総合的に行う。
	心理実践実習Ⅱ	2		公認心理師法に基づき、知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、実習を行う。実習内容は、(1)心理に関する支援を要する者等に関する次の知識及び技能の修得(①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等)、(2)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(4)多職種連携及び地域連携、(5)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解が含まれる。本実習では、「心理実践実習Ⅰ」に引き続き、学内実習(臨床心理センターおよび臨床心理センター附設適応支援教室「ゆとりあ」での実習)について、(1)～(5)に関する基本事項の整理や確認、支援計画の作成・見直し、事例検討、実習状況の確認・振り返りなどを個別指導と集団指導を併用し総合的に行う。また1年次後期に実施予定の教育分野に関する見学実習と福祉分野に関する体験実習の実習準備事前指導も行う。
	心理実践実習Ⅲ	2		公認心理師法に基づき、知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、実習を行う。実習内容は、(1)心理に関する支援を要する者等に関する次の知識及び技能の修得(①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等)、(2)心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(4)多職種連携及び地域連携、(5)公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解が含まれる。本実習では、「心理実践実習Ⅰ」「心理実践実習Ⅱ」に引き続き、学内実習(臨床心理センターおよび臨床心理センター附設適応支援教室「ゆとりあ」での実習)について、(1)～(5)に関する基本事項の整理や確認、支援計画の作成・見直し、事例検討、実習状況の確認・振り返りなどを個別指導と集団指導を併用し総合的に行う。また2年次に実施予定の医療分野に関する実習準備指導も行う。

種目	授 業 科 目	単位数	担当者	主研究内容等
選 択 科 目	心 理 実 践 実 習 IV	2	教授 博士 (人間環境学) ○村上久美子 教授 ○徳永 豊 教授 ○松永 邦裕 准教授 博士 (臨床心理学) 坂本 憲治	公認心理師法に基づき、知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、実習を行う。実習内容は、(1) 心理に関する支援を要する者等に関する次の知識及び技能の修得 (①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等)、(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(4) 多職種連携及び地域連携、(5) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解が含まれる。本実習では、「心理実践実習Ⅰ」「心理実践実習Ⅱ」「心理実践実習Ⅲ」に引き続き、学内実習(臨床心理センターおよび臨床心理センター附設適応支援教室「ゆとりあ」での実習)について、上記(1)～(5)に関する基本事項の整理や確認、支援計画の作成・見直し、事例検討、実習状況の確認・振り返りなどを個別指導と集団指導を併用し総合的に行う。また、医療分野での実習全体のふり返り(事後指導)も行う。更に、心理実践実習全体の総括も行う。
	心 理 実 践 実 習 V	2	教授 博士 (人間環境学) ○村上久美子 教授 ○徳永 豊 教授 ○田村 隆一 教授 ○松永 邦裕 教授 ○本山 智敬 准教授 博士 (人間科学) ○長江 信和 准教授 博士 (臨床心理学) 坂本 憲治	公認心理師法に基づき、知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、実習を行う。実習内容は、(1) 心理に関する支援を要する者等に関する次の知識及び技能の修得 (①コミュニケーション、②心理検査、③心理面接、④地域支援等)、(2) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、(3) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、(4) 多職種連携及び地域連携、(5) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解が含まれる。「心理実践実習Ⅴ」は学外実習に関する位置づけとなる(2年通年)。具体的には省庁により認可を受けた実習機関・施設で、(ア) 1年次には①福祉分野での体験実習、②教育分野での見学を主体とした実習を行い、イ) 2年次には5月ごろより(予定)、医療機関での実習を行う(90時間以上)。なおこれらの学外実習については、学外実習指導者の指導(毎回)、学内実習指導教員による巡回指導(実習5回につき1回程度)が定期的・継続的に行われる。
	心 理 統 計 法 特 論	2	教授 ○田村 隆一	心理学領域において用いられる統計法を概観する。研究に必要な統計手法の選択、適切なデータ収集、分析、解釈について検討する。データの収集や処理における、倫理上の問題や個人情報保護の問題についても取り扱う。
	教 育 心 理 学 特 論	2		【令和5年度休講】

2. 履 修 方 法

- ① 標準修業年限は2年とし、所定の授業科目について、合計32単位以上を習得しなければならない。
- ② 学生は、「教育」及び「臨床心理」の2分野のうちから一つの分野を選定する。
- ③ 学生は、選定した分野の選択必修科目の担当者のうち1人を指導教員とし、授業科目の選択、学位論文の作成、その他研究一般について、その指導を受けなければならない。
- ④ ①の32単位は、次の区分により修得しなければならない。
 - (1) 選定した分野の選択必修科目のうちから特講4単位及び演習4単位
 - (2) 選定した分野の前号以外の選択必修科目及び選択科目のうちから24単位以上

3. 開 講 方 法

教育・臨床心理専攻は、専ら夜間に授業を行います。

授業時間 1限 18:00～19:30

2限 19:40～21:10

※非常勤講師担当の授業科目については集中的な講義として開講することもあります。

※公認心理師受験資格を得るための科目については、昼間開講することもあります。